いいの？「八紘一宇」発言

新聞の片隅に書かれていた三原じゅん子「発言」を読んで、とにかく驚いた。それも参院予算委員会の質問だ。表題と写真は中日新聞 3 月 19 日特報である。リードから。

「国会で『八紘一宇』という言葉が飛び出した。自民党の三原じゅん子参院議員(50)が 16 日、参院予算委員会で『日本が建国以来、大切にしてきた価値観』と紹介した。この言葉は戦前・戦中の日本のアジア侵略を正当化する標語として使われた歴史がある。くしくも今年は戦後 70 年で、戦争を繰り返すまいという催しや報道が目立つ。そんな中、自民党内や国会でも大きな騒ぎになっていないが、それでいいのだろうか。」

2015年(平成27年)3月19日(木曜日)　中日新聞

話題の発掘　ニュースの直線

いいの？「八紘一宇」発言

国会で「八紘一宇」という言葉が飛び出した。自民党の三原じゅん子参院議員(50)が16日、参院予算委員会で「日本が建国以来、大切にしてきた価値観」と紹介した。この言葉は戦前・戦中の日本のアジア侵略を正当化する標語として使われた歴史がある。くしくも今年は戦後70年で、戦争を繰り返すまいという催しや報道が目立つ。そんな中、自民党内や国会でも大きな騒ぎになっていないが、それでいいのだろうか。（篠ケ瀬祐司、林啓太）

特報

戦中 アジア侵略正当化に利用

戦後 時の首相らが否定

三原氏「世界を一つの家と見立て統治」

参院予算委で「八紘一宇」を紹介しつつ、質問する三原じゅん子議員＝国会で

さすが特報である。この指摘に同感する。こうした「発言」の背景、時代状況を考えると見過ごせない問題だ。ましてや三原氏は自民党の女性局長の要職にある。安保法制の与党合意が行われ、「戦争する国」へと準備が加速している中での「発言」である。特報は「八紘一宇」の意味と歴史をたどる。

この言葉の源は日本書紀の記述だ。八紘は八方の地の果て、つまり世界のこと。宇は家のことだ。天皇が世界を一つの家と見立てて統治しようとの理念が示された。ただ、これは日本書紀の編纂者による創作と言うのが通説だ。千葉大の長谷川亮一特別研究員は「満州は朝鮮や台湾のように併合できなかった。第一次大戦後、民族自決の風潮が国際的に浸透していたためだ。そこで、日本が満洲国に対して支配的な地位に立つことを正当化する狙いで、天皇の威光が世界を覆うという八紘一宇の理念を主張した」と語る。つまり、アジア侵略を正当化する理念だったといえる。

専修大の荒木敏夫教授は「八紘一宇は侵略に苦しんだアジア民衆の心を刺す言葉。三原さんは政治家でありながら、他者の痛みへの想像力を欠いている」と指摘。長谷川研究員も「歴史的な文脈を無視した安易な使用が一般化するのは極めて危険だ。八紘一宇の理念の下に推し進められた侵略戦争の正当化にもつながりかねない」と危ぶんだ。

毎日 3 月 20 日夕刊「松尾貴史のちょっと違和感」においても、「八紘一宇」持ち上げる与党議員と題して、「言葉のチョイスは生命線では」と三原発言に疑問を投げかけている。政治家の劣化なのか、自民党女性局長の本音なのか、とにかく見過ごせない。

(2015 年 3 月 25 日)